

浅茅野 CS 通信 **き** **す** **な**

学校と保護者と地域でつくるお便り 早春号 浅茅野小コミュニティスクール

令和4年3月

浅茅野小 CS 事務局 TEL5-7312 FAX5-7317



<動画視聴しました！>

浅茅野の冬を鮮やかに思い起こし感動しました。(稚内市 館野 薫 第28代校長)

クロカンコースPR動画→



「ドローン空撮 PR 動画」誕生物語

猿払村立浅茅野小学校長 荒谷 卓朗

1 心に火がついた大人の力 ～森を生かした教育環境づくり～

【①スノーモービルはどこだ？】

好天に恵まれた 1/11 (火)、地域おこし協力隊の春日井さんと一緒にコース紹介の動画撮影。全長 1 km、森の木々の間を蛇行する新コースの空撮では、ドローンの追尾機能がきかないアクシデントが発生。瞬時に、ともや隊員が手動に切り替えて撮影成功。その後、スノーモービルの車体にカメラを設置、雪面に近いアングルで時速 60 km のスピード感を撮影できました。

【②ドローンが…筋肉痛?!】

再度、2 km のロングコースで空撮を試みるも、寒さでバッテリーがもたず、緊急着陸となりました。王子の森コースから戻り、学校グラウンド周回コースをミルで整地。さつき隊員がクロスカントリースキーに初挑戦、コースを一周してもらいました。「すでに筋肉痛…」と笑いながらも、無事撮影終了。ともや隊員は、「ワクワクがとまらない！」と編集に没頭し、翌日には動画が完成。カメラマンの喜び・意気込みが込められたカッコイイ仕上がり。ラストは走ってきたマシンがピタッと止まる、まるで生き物のような躍動感。なんと、そのシーンは、落ちたドローンを探しに行ったときに自動撮影したものでした。結果オーライ。

完成した動画は、猿払村 facebook・学校ホームページにて公開しています。企画政策課のプロモーションで素敵な物語が生まれました。皆様のご協力に感謝申し上げます。



<お知らせ>協力隊員が撮影した自然や動物の写真のブログを紹介します！

猿払村ぐらし <https://sarufutsu.net/>

2 笑いあふれた 1/8遊びの広場（言葉・落語ワークショップ）CS地域学校協働活動②

小4 国語教科書にある落語教材「そろそろ」。現場教師の要請で落語家に出前授業を依頼したことから生まれた本が『落語の授業 話す・聞く・思い描く力を育む』（三遊亭圓窓）です。落語は言葉から場面をイメージする「想像力」を高める日本特有の文化です。

1月8日、CS・各自治会と協働で浅茅野交流センターと遠隔地を結びハイブリッドで落語ワークショップを開催。小学生3名とその兄弟、地域住民含め20名が参加。落語教育家の楽亭じゅげむ氏のレクチャーで落語の基本と楽しみ方を体験しました。はじめに、「わくわく亭ニャンコ」、「アレキサンドラ山ゴライアス」、「さるふつ亭しょうこ」など、各自が芸名を考えました。そして、落語には想像の世界を頭で愉しむこと、会話で物語をつくること、笑いを生み出すための落ちがあることなど、体験で学びました。また、なぞかけにも挑戦しました。

「雨と飴、蛙と帰る」などの同音異義語探しから、かける言葉を使って句をつくりました。例えば、「ボールとかけまして、コマととく。その心は…、どちらも回るのが当たり前でしょう。」など、高座で発表する度に、笑いがおきました。

また、じゅげむさんと地域の大人の方に読み手になっていただき、「ペップかるた」（親守歌編）で遊びました。また、575ペップ川柳の読み合わせをしました。「若い 若い 私は若い」の句など、体を動かして唱和して和やかな雰囲気です。笑いがあふれました。様々な言葉遊びを通じて、世代を問わず一緒に楽しみ、地域の方々と交流できた喜びは貴重でした。

終わりの感想発表では、「落語とは、お笑いみたいなもの」、「落語とは、おもしろい小話」、「すごく面白くて楽しかった」、「落語がどんなものかを知れて楽しく聞けた」などのワクワク反応が返ってきました。また、大人の方は、「落語とは笑いにかえてくれることがとても良いことのように思います。一日に一度は笑えることのできる人間でありたいものと思います。」との実感を語られていました。（レポ：マイケル）



3 新クロカンコース体験記! 役場Noteで紹介されました!

2月クロカンコース開放前、企画政策課の小高さん、藤田さんが突撃体験型の取材で来校され、その様子を詳しくNoteに掲載していただきました。一部を紹介します。

子どもたちのグループから離れ、校長先生と一緒に今年増設された新コースへと向かいました。まだ誰も滑ったことのない、ふかふかの雪の上を進んでいきます。なんの跡も付いていない雪の上は板が何にも引っかからないので、とても滑りやすいように感じました。また、最後の直線がとても気持ちよく、下り坂を滑って勢いをつけて進んでいきます。(中略)



人生初のクロスカントリーで子どもたちのようにうまく滑ることはできませんでしたが、とても楽しい体験ができました。猿払村の大自然を直に感じることのできる体験で、この取り組みを通じて子どもたちが地元の良さを知り、地元へ愛着を持つきっかけになればいいなと感じました。また、この素晴らしい取り組みが今後も続いていけばいいなと心から思いました!(企画政策課のいさん)

全文は役場ホームページからリンクしています。是非ご覧ください。



4 オリンピック開幕~選手を支えた前向きな言葉~

カーリング女子は銀メダル。試合前から、様々な番組でチーム強化のために行ってきたコミュニケーション力がクローズアップされました。新聞報道や試合中継などで、ロコソラーレの選手がコミュニケーションをとる様子について知った方も多いかと思います。

チームを率いる本橋さんは、かつて選手時代を振り返り、「自分のことに興味がなかった」という話をされていました。ロコソラーレを結成した当初から、一貫して選手の力を発揮できる環境をつくろうと、一人一人に向き合ってどう声をかけたらよいかを考えてこられたそうです。そんな関わりが選手に浸透。藤澤五月選手はROCとの対戦前、「ごめん、緊張している」と仲間に打ち明けたそうです。すると、チームメイトは「いいよ、緊張して!」と笑いとばすように、その気持ちを受けとめる言葉をかけたそうです。

以前、本橋さんと話す幸運に恵まれ、コミュニケーションの方法としてペップトークがあることをお伝えしました。教育とスポーツで世界は違いますが、人と人がつながる「意思の疎通」という点で原則は同じだと思います。自分の気持ちを正直に伝えるのは、勇気が要ります。受け入れられるという安心感があってこそ、その言葉を発することができると思います。そして、コミュニケーション力は鍛えることができます。「ペップかるた」はその方法の一つとして、地域の方々にも楽しんでいただけたことをとても嬉しく思います。

地域の声 5 ペップかるた完成！～337ペップ、575ペップ川柳

浅茅野小11名の児童、教職員・地域の方々にご協力いただきペップ標語をつくりました。総数30句を厳選し、新しい「ペップかるた」にまとめました。337拍子の337ペップ20句、575ペップ川柳が10句です。色々な遊び方を楽しめます。絵から言葉を予想する、最後の5や7の言葉や、前の33、57を予想するなど、想像力を豊かにする工夫をしました。



昨年に続いて、かるたのイラストは、Tsumori Nana(つもりなな)さんにデザインしていただきました。親守詩20句のイラストも、あったかい絵が好評でした。今回は30句と数が多かったのですが、快く引き受けてくださいました。つもりさんは、絵本『ひらいてみてみ』を自費出版後、静岡県に移住。現在は、誰もが幸せになれるようにという願いをこめて「子ども食堂」を運営するなど、地域づくりに尽力されています。

<つもりさんへのお手紙>この度、またカルタにすてきな絵を描いて下さって、ありがとうございました。大変感激しました。うちの子や、私が詠んだものもあり、すごくすてきな絵がついていて嬉しいです。今後の活動等で、いつか協力できることがあれば、と思っています。本当にありがとうございました。

<児童の句・賞の紹介>すべての句に可愛いイラストが添えられています。

- きょうは ケーキといちごが とどくひだ /1年N・T (浅茅野自治会・おいしい賞)
- 肉うまい ラムがーばん さいこうだ /2年E・M (楽農塾・さいこう賞)
- 正月に お年玉もらうの たのしみだ /1年W・I (鬼志別保育所・たのしみ賞)
- すごいね 次はできるよ がんばるぞ /3年W・Y (浅茅野台地自治会・すごい努力賞)
- みんな みんな 自分を信じて /3年O・K (社会福祉協議会・自分大好き賞)
- できる 行ける きみならできる /3年I・T (さるふつ村観光協会・はげまし賞)
- できる 思い それが大事さ /3年A・Y (拓心中学校長・太鼓判賞)
- もう少し がまんをすれば 冬休み /5年T・T (やすらぎ苑施設長・やすらぎ賞)
- あとちょっと 勉強終われば ゲームゲーム /6年O・K (学校長・想像できる子賞)
- ゴールまで もうちょいガンバ あと少し /6年H・A (CS委員長・ねばり賞)
- 大丈夫 みんながいるから 生きられる /6年M・T (教育長・最優秀安心賞)

<地域の方々の句の紹介>～12月の「言葉×太鼓ワークショップ」で詠んだ句です。

